

中遠クリーンセンターにおける年間処理量について

1 設計処理能力

中遠クリーンセンター建設時、実施設計図書の7-1、運転管理条件

(1) 溶融炉年間稼働日数

2炉運転 180日/年、1炉運転 178日/年、全炉停止7日/年

(2) 年間ごみ処理量

35,500 t/年

2 長期包括的管理運營業務 要求水準書

受託者は、次の(1)～(3)のと通りの定格処理量・運転日数・運転時間により、搬入されたごみを滞りなく処理すること。

(1) 定格処理量の確保ごみ処理量

計画ごみ質において、2炉運転時には132t/日、1炉運転時には66t/日の定格処理に努めること。

(2) 運転日数

各炉280日以上、1炉運転、2炉運転を合わせて、年間350日程度の運転を可能とすること。⇒ $90日 \times 3回 \times 66t \times 2炉 + 10日(立上げ) \times 30t \times 2炉 = 36,240t/日$ できる体制をとっておくこと

(3) 運転時間

本施設の運転時間は、24時間/日とする。

↓

		1号炉運転		2号炉運転		1炉運転		2炉運転		全炉停止	
要求水準		280		280						15	
R1	実績	288		293		123		229		14	
R2		261		313		128		223		14	

単位：日

3 ごみ処理量の実績（内訳）

		単位：トン				
		ごみ処理量	ごみ搬入量	大塊・リターン灰	木チップ	余剰水・底ごみ
計画		35,500	34,000	1,000	0	500
要求水準		36,240	34,240	1,000	0	1,000
R1	実績	36,235	32,930	859	492	1,954
R2		35,962	32,154	966	639	2,203

4 年間ごみ処理限界量について

年間ごみ処理限界量		37,500 t/日
内訳	ごみ搬入量（最大）	34,000 t/日
	大塊・リターン灰・木チップ・余剰水・底ごみ	3,500 t/日

※年間ごみ処理量には、ごみ処理の際に発生する粉砕できない溶融物等（大塊・リターン灰）を含むとともに、炉内状況安定及びCO₂排出削減のため木チップを投入している。

また、工場内では、設備の冷却や清掃業務等において水を使用しているが、工場内使用水は、環境対策面からクロズドシステムとしており、外部に排水していない。この水は、排気ガスの冷却や大塊・リターン灰への噴霧に使用しているが、余る水は余剰水としてごみピットに投入しており、燃えるごみと混ぜて処理している。底ごみは、汚泥をはじめとしたピットの底に長年蓄積されたごみであり、こちらも燃えるごみと混ぜて処理している。